―新津の治水史に新たな一ページ―

喜びの分流通水式、間近に

分流通水までの歩み

7月22日に通水式が行われる能代川分流

42・8　8・28水害。
42・9　「能代川改修に関する説明会」を開き、初めて分流計画を公表。
42・11　市議会で能代川水害防止計画の促進を決議。
43・2　分流法線が確定。
43・2　地元農民を中心に能代川分流案反対期成同盟が結成される。
43・4　能代川改修事業を推進するため、市に専門職員を二名配置。
44・6　市に改修推進本部を設置。
45・7　市議会に能代川分流特別委員会を設置。
45・8　新町地区で最初の用地買収交渉が成立し、契約。
46・2　善道地区で用地買収交渉成立。
48・11　新町橋架橋工事に着手。

通水の陰に多くの犠牲も

先号に続いて、能代川分流のことを取り上げてみました。

五十三年度百二十三件、五十四年度百三十五件、五十五年度二百三十二件、五十六年度百四十七件……。これは、能代川分流の担当者が、用地交渉に出かけた回数の記録の一端です。

一般的に、公共事業は用地買収が終われば九九％終わったも同然といわれます。用地買収の難しさを言い表した言葉ですが、能代川の場合、対象となった土地は分流区間で約八十万平方㍍、分流より下流の区間の改修工事で約四十三万平方㍍です。そして、これに関係した地権者は約七百人にものぼりました。

この数字は、交渉の難しさをうかがわせると同時に、能代川分流は広大な美田と多くの人の犠牲にもとづいて通水するということを物語っています。今号は、これ関係者の皆さんのお話や、能代川分流に対する期待の声などをご紹介しましょう。

やむをえなかった…　荒木健吾さん（柄目木）

荒木健吾さん

八・二八水害の直後、当時の記念公会堂で能代川改修の説明会があったんですよ。そこで初めて分流計画を聞いたわけですが、これはとんでもない話だと思いました。先祖伝来の田地の、それも一番いい田んぼがつぶれるわけですからね。我々農民には大打撃です。そんな分流より、まず現川改修をやればいいじゃないか、ということで関係部落をまとめ、反対期成同盟を結成しました。

その初代会長に私がなったわけですが、反対期成同盟では県へはもちろん、上京して建設省へ反対陳情したことも二、三度ありました。また、当局に対して、個々に交渉を進めるようなことはしないでくれ、という申し入れをしていましたので、用地買収に手をつけられない時期がしばらく続いたわけです。

ところが、そのうちに各部落の役員を対象に説得工作が行われ、徐々に雰囲気が変わってきました。反対期成同盟でも、下流部分の方から次第に軟化してきたんですよ。私も会長という立場上、賛成に回るわけにはいきませんでしたが、やむをえないな、という気持ちに変わってきたことは確かです。それで四十六年に会長をおりたわけです。

柄目木では、ほとんどの農家が用地買収の対象になりました。農地の大部分がかかって、農業をやめた人もいます。また農業を続けるにしても、分流で分断されたため、耕作が不便になりました。橋の取付道路の勾配が結構きついものですから、年寄りにはこたえるんですよ。

分流はさまざまな問題を投げかけましたが、あれ以来、田んぼを〝商品〟のように考える風潮が強くなったように感じますね。昔は、田んぼを売るのは恥だったんですが…。

お買物、ご用命は市内で

≪エイゼン≫
住まいの修理専門
小さな事でもお気軽にご相談ください。
（塗装・板金・左官・その他の工事もやっております）
住宅管理維持サービス
くまくら　☎4-5994（夜間兼用）
新津市善道町1丁目3－30

涼しげなプリント地の一着は
夏ならではの魅力
綿ストライプ、サッカープリント、
サンドレス、ホームドレスで楽しく
旅行着、黒の喪服、オーダーの方はお早目に
SENSEとIDEA
㈲洋装のきむら
新津市本町3丁目2番15号　☎2－1495

53・1　飯柳地区で用地買収交渉成立。
53・6　6・26梅雨前線豪雨。
53・8　能代川改修事業が河川激甚災害対策特別緊急事業に採択される。
53・9　大関墓地の移転交渉開始。
53・10　市に能代分流対策室を設置。
53・12　草水地区で用地買収交渉成立。
54・2　大関地区で用地買収交渉成立。
54・2　小口地区で用地買収交渉成立。
54・2　新金沢町商店街の移転について交渉開始。
54・9　分流の掘削・築堤工事を開始。
54・12　日吉神社（北上）の移転交渉が成立し、調印。
56・7　日吉神社の移転新築工事完成。
56・10　新金沢町商店街の移転交渉成立。
57・4　新金沢町商店街の移転新築工事が完成。

能代川改修事業が「激特」に採択されるきっかけとなった6・26水害

激特適用で方向転換　宮腰新治さん（大関）

宮腰新治さん

分流には田んぼが約七反、それに屋敷も半分かかりました。母屋もかかったため建て直しましたし、農舎も豚舎も移転しました。結局、動かさなかったのは土蔵一つですね。

法線が決まったとき、こういうふうになるのがわかりましたから、分流には絶対反対でした。ところが、下流の方から用地買収交渉が妥結してきていましたし、五十三年の激特適用で考えが変わりました。いくら反対してもだめだろうし、分流計画は市全体からみればプラスだということで、方向転換したわけです。ただ、代替地といってもこの辺には見つからなくてね。結局、荻川方面に求めざるをえなかったので、耕作をあきらめて委託に出しています。

大関では、墓地移転の問題もありました。委員長の佐藤兵次さんのもとで副委員長をしたんですが、全部解決するまで、かれこれ六年くらいかかりましたね。県・市が非常によく面倒をみてくれましたので、今年の六月に無事移転が終わり、開眼法要をすることができました。

分流で屋敷が半分になったり、田んぼも大分減ったということはありますが、水害にいっては、もう心配しなくてもいいのでは、と思っています。これまでは、島崎あたりの田んぼは、毎年水をかぶっていましたからね。

居間から、毎日、通水式の会場になるところをながめていますが、うちは三代夫婦がそろっているということで、七月二十二日の江戸内大橋の渡り初めに選ばれました。たいへん名誉なことですし、ありがたいことだと思います。

前向きに移転を検討　山田昭吾さん（新金沢町）

山田昭吾さん

新金沢町商店街が移転しなければならないだろうという噂は、前々から聞いていました。しかし、正式に話があったのは、昭和五十四年の二月でした。柄目木大橋の取付方法によっては、移転しなくてもよいのではないかとかすかな望みを持っていたんですが…。

移転話を聞いたときは動揺しましたが、絶対反対ということではありませんでした。農家の方も大きな犠牲を払って協力しているんだし、前向きに移転を検討しようということで商店街は一致していました。ただ商売ですから、移転する場所がどこでもいいというわけにはいきません。それに、十軒がそろって同じ場所で商売をやれるところ、というのが条件でした。

移転先の用地交渉については、当時の志田市長が、足が悪いのに、夜、出かけてくれたりしたんですが、結局まとまりませんでした。それで、今のような東金沢寄りに二軒、五中前に六軒という形になったわけです。みんなそろって同じ場所で、ということを考えていましたから、移転が完了したときも釈然としない気持ちが残りましたね。また、場所としてはまあまあだと思いますが、団地のはずれになりましたので、雨の日なんか、お客さんの出足が悪いですね。

分流は百三十㍍もの川幅があるので、市街地と分断されたような気もしますが、今一番心配なのは、やはり水害です。阿賀野川と分流にはさまれる形ですからね。暫定の暫定ということで流量は四百㌧でしょう。これからも引き続いて工事を進め、二～三年後には八百㌧、そして最終的には千二百㌧まで大丈夫なようにするということですので、それを見守っていきたいですね。

お買物、ご用命は市内で

スポーツ用品全般・体育施設工事
スポーツショップ　あべ
新津市本町4丁目1～23
電話02502(4)8543　夜間（自宅）(4)0295

スタジオサカツメ
新津市本町四丁目5－1　☎4－6211
免許・証明写真
一級写真技能士
駐車場あり
婚礼出張撮影
お見合写真
新津駅　至新潟　3丁目　2丁目　第一小学校　文　本店　スタジオサカツメ　駐車場あり　カメラのサカツメ　引沢　中沢　至五泉　能代川　新町　カメラのサカツメ新町店